

【V】 梅雨空を染める花と実

初夏の白い花が咲き終わる頃、田植えも終わり、野山はすっかり夏を迎える。寒さに向かう季節と違って、日一日と日が伸びて、どこか心にゆとりが生まれて来る。「早苗植えわたす夏は来ぬ」という表現は、実に見事にこの季節を言い当てている。

しかし6月は意外と花の咲く木の少ない時季で、梅雨空だけがうっとうしい毎日ではある。そんな中であって『紫陽花』や『くちなし』など、梅雨期の花たちは、この季節を待ちわびていたように次々と花を咲かせる。そして園芸ファンにとっては大事な挿し木のシーズンでもある。この時期に挿し木して活着しない木はほとんどない。活着率の問題を除けばほとんどの木は挿し木で殖やすことができるのである。しかし問題はむしろその後である。挿し木で根が出たとしても、大きくなって花が咲くまでには、ものによっては何年もかかってしまう。接ぎ木はこうした効率の悪さを克服するための手法でもあるのだ。

しかし営利を目的とするのでないなら、あえてこの効率にチャレンジしてみるのも面白いかも知れない。そこには必ず何か新しい発見があるに違いない。何年か前に、畑の脇の斜面に大きな野バラの一塊があった。服に刺がからむことが多かったので、これを根元から切ることにした。切り株はかなりの古木であったから刺もほとんどなく、その幹の部分の大地に突き刺して、しばらく他の植物の支柱にしておいた。ところがある時この支柱から新芽が出てきた。なんと径4cmにも及ぶバラの幹が、結果的には挿し木で着いてしまったのである。

ツバキも挿し木でよく活着することはすでに述べた通りで、せいぜい2~3芽のところまで挿すのが普通である。ところが『羽衣』のかなり大きな枝を挿しておいたら、これも1年で花まで着いてしまった。植物の世界というもの、何が出てくるかわからないところが面白い。そして我々の原始的な知識を組み合わせることによって、更に新しい発見が期待できるところがガーデニングの醍醐味ということもできよう。梅雨空のもと梅雨時にしかできないことを、なにか始めてみてはいかがだろうか。

※対生と互生と輪生=葉をよく観察してみると、同じところから左右に葉が出ているものを対生と言い、交互に出ているものを互生という。また同じところから輪を描くようにいくつもの葉が出ているタイプを輪生という。この他、同じ対生でも出る角度が90度ずつずれているものを十字対生という。珍しいものではコクサギ型対生といって、二枚ずつが一組になって対生しているものもある。植物の花や葉の構造や名称等に関しては[植物の用語集図説]を参照してください。



上は国蝶オオムラサキの♂、下は♀（山梨県北杜市）。

この項に記されている植物のリスト

【V】 梅雨空を染める花と実

02-05-00-1

- | | |
|-------------------|------------|
| 1) ヤマブキ=山吹 | 02-05-01-1 |
| 2) キリ=桐 | 02-05-02-1 |
| 3) アウチとセンダン=棟と梅檀 | 02-05-03-1 |
| 4) アジサイ=紫陽花 | 02-05-04-1 |
| 5) ザクロ=石榴 | 02-05-05-1 |
| 6) クチナシ=梔子 | 02-05-06-1 |
| 7) キンシバイ=金糸梅 | 02-05-07-1 |
| 8) ビオウヤナギ=未央柳 | 02-05-08-1 |
| 9) ギョリュウ=御柳 | 02-05-09-1 |
| 10) オガタマ=小賀玉木 | 02-05-10-1 |
| 11) ビワ=琵琶 | 02-05-11-1 |
| 12) グミとキイチゴ=茱萸と木苺 | 02-05-12-1 |
| 13) グズベリーとブルベリー | 02-05-13-1 |
| 14) ヤマモモ=山桃=楊梅 | 02-05-14-1 |

目次に戻る
